年間授業計画 様式例

高等学校 令和8年度（１学年用） 教科 地理歴史 科目 歴史総合

教 科： 地理歴史　　科 目： 歴史総合　　単位数： 2 単位
対象学年組：第 1 学年 A 組～ E 組
教科担当者 （A組：駒田）（B組：駒田）（C組：駒田）（D組：駒田）（E組：駒田）
使用教科書 （ 帝国書院 『明解 歴史総合』 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知 識 及 び 技 能 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に，それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	A 単元 第１部 歴史の扉 【知識及び技能】 ・生活や身近な地域などに見られる諸事情が、日本や日本周辺に地域及び世界の歴史とつながっていることを理解できるようにする。 ・絵画・文書資料・統計データなど歴史における資料の重要性と，事実と解釈を分けて読み取るなどの適切な読み解き方について理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・身の回りの事象と世界の歴史との結び付きについて考察し，表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・歴史的諸資料がもつ特質について、主体的に追求しすることができるようにする。	・指導事項 １章 歴史と私たち ２章 歴史の特質と資料 ・教材 帝国書院 『明解 歴史総合』 帝国書院 『明解 歴史総合図説 シンフォニア』 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・歴史の扉について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	2
	B 単元 ２部 近代化と私たち 序章 近代化への問い １章 江戸時代の日本と結び付く世界 【知識及び技能】 ・近代化に関する複数の資料を分析し、そこから抜き出した情報を適切に取り扱う技能が身に付くようにする。 18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と，日本への影響について，資料を読み取り，理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、近代化を読み解く問いを表現することができるようにする。 ・「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、みずからの言葉で表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組めるようにする。 ・18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究できるようにする。	・指導事項 １節 アジアの中の江戸幕府 ２節 成熟する江戸社会 ３節 清の繁栄と結び付く東アジア ４節 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ ・教材 帝国書院 『明解 歴史総合』 帝国書院 『明解 歴史総合図説 シンフォニア』 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 ・18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り、理解している。 ・18世紀における清を中心としたアジアの国際秩序やヨーロッパ諸国との交易について理解している。 ・16～17世紀にアジア諸国の交易が盛んになった様子を概観し、そのなかで日本が「四つの窓口」による限定的な交易を行ったことを理解している。 ・18世紀における清を中心としたアジアの国際秩序やヨーロッパ諸国との交易について理解している。 ・イスラーム帝国の繁栄とヨーロッパ諸国のアジア，アメリカへの進出について理解している。 【思考・判断・表現】 ・「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、みずからの言葉で表現している。 ・江戸幕府が貿易を統制した目的について考察し、表現している。 ・江戸時代の社会について、幕末以降の日本の近代化との関連を考察し、表現している。 ・銀の動きに着目し、清と近隣諸国、ヨーロッパ諸国との交易の特徴について考察し、表現している。 ・大西洋三角貿易がアフリカとアメリカに残した課題について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
	C 単元 ２章 欧米諸国における近代化 ３章 近代化の進展と国民国家形成 【知識及び技能】 ・市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を読み取り、理解できるようにする。 ・国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について資料を読み取り、理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、みずからの言葉で表現できるようにする。 ・国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、みずからの言葉で表現する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響と課題について、追究できるようにする。 ・国民国家や帝国主義政策が，現代社会に与えた影響と課題について追究できるようにする。	・指導事項 ２章 １節 イギリスの革命とアメリカの独立 ２節 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け ３節 フランス革命の影響と国民意識の芽生え ４節 産業革命で変わる社会 ５節 イギリスの繁栄と国際分業体制 ３章 １節 1848年～近代ヨーロッパの転換点 ２節 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代 化 ３節 アメリカの拡大と第２次産業革命 ４節 帝国主義と世界の一体化 ・教材 帝国書院 『明解 歴史総合』 帝国書院 『明解 歴史総合図説 シンフォニア』 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 ・イギリスの革命とアメリカの独立によって成立した、それぞれの政治体制について，啓蒙思想に着目して理解している。 ・フランス革命の理念を人権思想に着目して理解している。 ・ナポレオンによってフランス革命の成果がどのように定着し、その失脚後にはどのような国際的枠組みが作られたのか理解している。 ・産業革命の進行と、その結果確立した資本主義による社会の変化について理解している。 ・国民国家の形成について、ナショナリズムの運動に着目して理解している。 ・イタリア・ドイツの統一とロシアの改革を推進した人物に着目して、これらの国々の近代化について理解している。 【思考・判断・表現】 ・イギリスとアメリカで成立した政治体制とその違いについて考察し，表現している。 ・フランスの政治体制や社会が革命によってどのように変化したのか考察し、根拠に基づいて表現している。 ・産業革命による社会の変化に着目し、現代につながるどのような問題が生じたかを考察し、表現している。 ・アメリカが工業大国になった原因について、科学技術や経済に着目して考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	6
	D 単元 ２部 近代化と私たち ４章 アジア諸国の動揺と日本の開国 ５章 近代化が進む日本と東アジア 【知識及び技能】 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解できるようにする。 ・明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、みずからの言葉で表現できるようにする。 ・明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、みずからの言葉で表現できる力をみにつける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究する力を身に付ける。	・指導事項 １章 １節 「西洋の衝撃」と西アジアの変化 ２節 南・東南アジアの植民地化 ３節 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 ４節 黒船の来航と日本の対応 ５節 新体制の模索と江戸幕府の滅亡 ２章 １節 新政府の誕生 ２節 近代国家を目指す日本 ３節 日本と清の近代化と日清戦争 ４節 列強の中国進出と日露戦争 ５節 日露戦争が与えた影響 ・教材 帝国書院 『明解 歴史総合』 帝国書院 『明解 歴史総合図説 シンフォニア』 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 ・ヨーロッパの進出に対し、オスマン帝国、エジプト、イランの３か国がそれぞれどのような対応をとったのか理解している。 ・欧米諸国に対して日本側が採った対応を、行動の主体（幕府と各藩）に着目して理解している。 ・日本が、明治維新の諸改革によって急速に近代化を進めたことについて理解している。 ・大日本帝国憲法制定と外交に基づく領土の画定について、背景と過程を理解している。 【思考・判断・表現】 ・オスマン主義とパン＝イスラーム主義の違いとそれらが生まれた背景について考察し、表現している。 ・植民地になった地域の社会がどのように変化したか考察し、表現している。 ・明治維新の前後で国のしくみと身分制がどのように変化したか考察し、表現している。 ・近代国家となった日本の政治に国民がどの程度参加できたか考察し、表現している。 ・日露戦争に伴う日本と欧米諸国の関係の変化について、その要因を考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
2学期	E 単元 ３部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 序章 国際秩序の変化や大衆化への問い １章 第一次世界大戦と日本の対応 【知識及び技能】 ・国際秩序の変化や大衆化に関する複数の資料を分析し、そこから抜き出した情報を適切に取り扱う技能が身に付くようにする。 ・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を総合し、国際秩序の変化や大衆化を読み解く問いを表現する。 ・第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、みずからの言葉で表現にする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組む力を身に付ける。	・指導事項 序章 １章 １節 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 ２節 総力戦となった第一次世界大戦 ３節 ロシア革命と大戦の終結 ・教材 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 ・ドイツとロシアの対外政策の変更によって、バルカン半島で国際的な利害が対立していったことを理解している。 ・第一次世界大戦が総力戦化した構造を理解している。 ・ロシアで革命が発生した背景や経緯を理解している。 【思考・判断・表現】 ・ドイツの政策がヨーロッパ諸国の対立や同盟に与えた影響について考察し、表現している。 ・第一次世界大戦の特徴と戦争の被害が拡大した要因について考察し、表現している。 ・ロシア革命の影響で「終わったもの」と「始まったもの」について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	6
	F単元 ２章 国際協調と大衆社会の広がり 【知識及び技能】 ・ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、２０世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	・指導事項 ２章 １節 ヴェルサイユ体制の成立 ２節 東アジアの民族自決の行方 ３節 中東・インドの民族自決の影響 ４節 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 ・教材 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 ・第一次世界大戦後、国際連盟が形成された経緯について理解している。 ・朝鮮と中国における民族運動の高まりと、列強によるワシントン体制の成立について理解している。 ・中東とインドの民族運動の経緯と現代まで続く課題について理解している。 【思考・判断・表現】 ・ヴェルサイユ体制と国際連盟の課題について考察し、表現している。 ・中国の人々にとって、ワシントン体制がどのようなものであったかを考察し、表現している。 ・大戦後、各国で大衆の政治参加が進んだ理由について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
	G単元 ２章 国際協調と大衆社会の広がり ３章 日本の行方と第二次世界大戦 【知識及び技能】 ・世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し，みずからの言葉で表現する。 ・日本が総力戦遂行のために国内外で行ったことについて、当時と現在の視点で考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	・指導事項 ２章 ５節 大衆社会の出現とアメリカの繁栄 ６節 日本における大衆社会の形成 ３章 １節 世界恐慌が与えた影響 ２節 ファシズムの台頭と拡大 ・教材 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 ・大衆社会の成立と大衆文化の特徴について理解している。 ・日本における大衆の政治参加と大衆社会の形成について理解している。 ・世界恐慌への各国の対応が世界情勢に与えた影響と、ソ連のスターリン独裁の功罪について理解している。 【思考・判断・表現】 ・大正時代の日本におけるデモクラシーの達成点と課題について考察し、表現している。 ・ファシズム勢力に、大衆が同調したり、見過ごしたりした理由と課題について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	6
	H 単元 ３章 日本の行方と第二次世界大戦 【知識及び技能】 ・満洲事変という事態を日本の大衆が支持するに至る経緯を、背景となった恐慌の苦難という観点から理解する。 ・大衆の支持を背景に台頭した軍部が、政治的発言力を強めて軍備を増強し大陸侵略を目指すに至った経緯を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日本が、中国だけでなくアメリカと戦争を始めた理由について考察し、表現する。 ・なぜ第二次世界大戦では多くの犠牲者が出ることになったのか考察し，表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・戦争が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	・指導事項 ３章 ３節 政党政治の断絶と満洲事変 ４節 日中戦争の始まり ５節 第二次世界大戦の展開 ６節 戦局の悪化と被害の拡大 ７節 第二次世界大戦の終結とその惨禍 ・教材 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 ・満洲事変という事態を日本の大衆が支持するに至る経緯を、背景となった恐慌の苦難という観点から理解している。 ・大衆の支持を背景に台頭した軍部が、政治的発言力を強めて軍備を増強し大陸侵略を目指すに至った経緯を理解している。 ・日本がポツダム宣言を受諾するに至る経緯や被害の甚大さ、終戦後の日本とアジア諸国の関係にある深い傷あとについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・日本の大衆や政府が、軍部による満洲進出を止められなかった理由について考察し、表現している。 ・日本がイギリス・アメリカとの協調をやめ、ドイツ・イタリアに接近した背景について考察し、表現している。 ・日本が総力戦遂行のために国内外で行ったことについて、当時と現在の視点で考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・戦争が、現代社会に与えた影響と課題について追究している。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
3学期	I単元 ４章 再出発する世界と日本 【知識及び技能】 ・冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が，現代社会に与えた影響と課題について追究する。	・指導事項 ４章 １節 戦後の新たな国際秩序 ２節 冷戦の始まり ３節 日本撤退後の東アジア ４節 日本の改革と独立の回復 ・教材 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 日本とドイツに対する連合国の戦後処理の目的と結果、および国際連合を中心とした国際平和協力について理解している。 ・米ソ対立と東西冷戦という戦後の理想から現実への転換と、対立を克服しようとするヨーロッパの統合の試みについて理解している。 ・日本の民主化と、東西冷戦が日本に与えた影響について理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際連合について、国際平和の維持に対しての達成点と課題を、国際連盟との相違も踏まえて考察し、表現している。 ・冷戦がヨーロッパ諸国に及ぼした影響について考察し、表現している。 ・日本が独立回復の際に，全面講和ではなく多数講和を選択した理由について考察し，表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	4
	J単元 ４部 グローバル化と私たち １章 冷戦で揺れる世界と日本 ２章 多極化する世界 ３章 グローバル化の中の世界と日本 【知識及び技能】 ・冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取、理解する。 ・冷戦下の１960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解する。 ・冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現する。 ・各国の選択を比較し，「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、みずからの言葉で表現する。 ・グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	・指導事項 ４部 １章 １節 アメリカ・ソ連の緊張と緩和 ２節 冷戦下における日本の復興 ３節 第三勢力の形成と脱植民地化 ４節 中東戦争とパレスチナ問題 ２章 １節 揺らぐアメリカと先進各国の変化 ２節 「経済大国」日本の模索 ３節 経済発展に取り組むアジア・南米諸国 ４節 イスラーム復興と冷戦への影響 ３章 １節 冷戦の終結と変わる世界構造 ２節 冷戦の終結が与えた世界への影響 ３節 超大国アメリカと中東情勢 ４節 国際環境の変化と日本 ５節 グローバル化による国際社会の変容 ・教材 ・一人１台端末の活用 等	【知識・技能】 ・スターリン批判以降の冷戦の緊張と緩和について、各国の国内の動向および相互の関係に着目して理解している。 ・第三勢力の形成と脱植民地化の動向について、冷戦との関係を踏まえて理解している。 ・ベトナム戦争がアメリカ社会と国際社会に与えた影響を理解している。 ・1970～80年代の日米経済摩擦と、アジア諸国との関係回復について理解している。 ・イラン=イスラーム革命革命とソ連のアフガニスタン侵攻について事実に基づく知識および背景を理解している。 ・冷戦の終結により、グローバル化が進み、世界構造が変化したことを理解している。 ・冷戦以前から続く中東の状況やアメリカの関与、戦乱に伴う難民問題について理解している。 ・グローバル化に伴う多極化や反グローバル化運動への対応、多様性の容認などをみずからの問題として理解している。 【思考・判断・表現】 ・日本が高度経済成長を達成することができた要因について、国内外の情勢と関連させて考察し、表現している。 ・中東で20世紀後半に混乱が続いた要因について考察し、表現している。 ・経済大国となった日本が抱える国際的な課題と求められる貢献について考察し、表現している。 ・第二次世界大戦終結以降、民主化がどのように推移したかについて地域を選択して考察し、表現している。 ・グローバル化のデメリットを一つ選択し、その解決策について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							70